



【校訓】
自主
根性
協同

R5、5、26発行
文責 光山

「佐敷旋風」が巻き起った体育大会

天候が心配でしたが、五月二十日に予定通り第七七回体育大会を開催することができました。今年度から、ご来賓の皆様にご案内することもできるようになり、以前と同様たくさんの方々に参観していただくことができ、生徒たちにもより一層気合いが入り、思いを込めた体育大会を創り上げることができたように思います。今年度の体育大会テーマ「昇華〜巻き起こせ、佐敷旋風〜」の下、準備期間から生徒の体育大会にかける思いがひしひしと感じられ、例年以上にまとまりと仕上りの良さを感じました。集団行動では一週間前にはいつでも本番を迎えられるように仕上がっていました。本番でも一糸乱れず、まとまりのある集団行動で、歩くだけで感動を与えていました。ダンスでは、自分の殻を破って表現することを目標に練習を重ねました。本番では周りを笑顔にするキレキレのダンスを楽しそうに踊っている姿が印象的でした。体育大会を通して感じた、各学年の印象をお伝えします。

○一年生。体力的にも気力の面でも、先輩たちについていくことは大変きつかったと思います。しかし、それらを乗り越えて本番を迎えていることがよく分かりました。わずか、一月半あまりの間に、中学生らしく、逞しく頼もしく成長した姿がありました。子供たちの成長のスピードに驚かされるばかりでした。

○二年生。先輩ができてからの姿には、先輩としての自覚を感じていました。一年生をリードし、三年生を支え、逞しく活動できるようにになり、体育大会の成功に大きく貢献してくれました。佐中生としてのプライドと自覚を持った取組にうれしくなりました。

○三年生。毎日の学校生活でも、佐敷中のリーダーとして、自覚を持った生活をしている様子を感じていましたが、体育大会にかける熱い思いは、全力を出し切る姿に表れていました。佐敷中の伝統を受け継ぎ、次へのレガシーを残すことができました。素晴らしい時間を創り上げてくれました。三年生には、感謝の言葉しかありません。

このような思い出に残るすばらしい体育大会を創り上げることでできたのも、本番まで温かく見守っていただいた近隣の地域の皆様や保護者の皆様のご協力があってこそです。改めて、ご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

応援団の演舞には、それぞれの団の威信をかけた熱い思いと気迫が表れていました。短期間で仕上げなければならいために、その過程では、意見のぶつかり合いやさまざまな葛藤があったようです。話し合い、協力、折り合い等を重ねることが、演舞をより良いものするとともに、一人一人の成長にもつながったと思います。応援や団対抗に勝ち負けはつきものですが、優劣はないと強く思いました。両団に拍手です。



上下の写真は開会式と閉会式の生徒の様子です、開会から閉会まで気を抜くことなく集中した凛とした姿に感銘を受けました。



あとがき
今回は、体育大会特集号となりました。「生徒と教師、参観者が一体となった体育大会はかくあるべき」ということを実感することができた大会でした。
地域の皆様から生徒の姿に感動した、一つ一つのプログラムが工夫されていた心動かされた等々大変ありがたいお褒めの言葉をたくさんいただきました。
また、久しぶりの制限のない体育大会でしたので、見に来ていただいた方も多かったように感じました。その期待に添えるべく、生徒は全力を出すことができました。と思います。
上の写真は、今年が最後となる私（校長）に対する生徒のサプライズにより、集団演技の後に、全校生徒と写った集合写真です。生徒の優しさを感じながら写ることができました。感謝です。
今後も生徒のために全力を尽くします。（光）